

今回は、羽曳野市にある「はびきの園」さんの「アトリエ・ハピパール」をご紹介します。
ハピパールとは、はびきの園のモノづくりを通じてみんながハッピーになれるようにという意味があり、ひとつの作業グループを指すのではなくはびきの園自体がアトリエで、そこから出される商品（陶器、木工、製菓、EM製品など）はすべてハピパールのブランドと考えられています。

元々アートの取り組みとしては、10年位前から画用紙に色鉛筆で絵を描いたりしてきたのですが、活動を重ねるにつれ現場の職員だけでは追いつかなくなり、専門的なスキルを持ったデザイナーが必要だということになりました。現在は月1回、デザイナーが現場のサポートなどを行っています。

社社会福祉法人ふたかみ福祉会 はびきの園
〒583-0841 羽曳野市駒ヶ谷 106-1
TEL 072-957-4041 FAX 072-957-2215

※表紙の写真は、絵画の作業風景です。

デザイナーのサポートで施設のモノづくりが大きく変わりました。技術的な支援はもちろんですが、何よりいろいろな人とつながるようになったことが大きいということです。例えばそれまでは作品展を地域の公民館などを借りてしていましたが、ギャラリーでも積極的に展示会を開くようになりました。そうすると作品に興味を持ってくれる人たくさん出会うようになり、利用者さんの作品がいろいろなところに出ていくようになりました。中にはプロの作家さんで利用者さんの作品を素材として取り上げてくれる方もいらっしゃいます。

施設でつくる作品を売るだけでは頭打ちだと感じていたので、作品を素材として買ってもらおうということは新たな販売機会の拡大にもなりました。客層も以前は保護者や関係者が中心でしたが、現在は若い人や福祉関係以外の人も増えています。

利用者さんの作品が世に出ていくことで利用者さんと社会のつながりも深まっていきます。そうすると職員の役割もつながりをどう発展させていくのかということがより重要になっています。アトリエ・ハピパールでは、今後もいろんなネットワークにつながっていくことで作品の評価をもっとあげていきたいと考えています。
★ハピパールの作品は、HP → **COCOAKE**

出店者募集

・・日本生命保険相互会社の食堂・・

- ◆ 出店日 曜日を決めて月2回を予定
- ◆ 出店時間 11:30~13:00
- ◆ 出店場所 ニッセイ新大阪ビル5階 (400名の食堂)
- ◆ 販売製品 パン、クッキー、ケーキ類など

締切: 9月9日(金)まで

担当 受発注コーディネーター 諏訪

・・四天王寺ワッソ(2団体)・・

- ◆ 出店日 11月6日(日)
- ◆ 出店時間 10:30~17:00
- ◆ 出店場所 史跡なにわの宮跡
- ◆ 販売製品 クッキーなどの焼き菓子、自主製品など

締切: 9月16日(金)まで

担当 受発注コーディネーター 浅田

下請作業の募集

・・衣料品のプライスタグ付け作業・・

- ◆ 箕面市船場にある企業様からの引き合いです
- ◆ 納品・引き取りを行えること
- ◆ 作業量は必要に応じて対応してもらえます

締切: 9月15日(木)まで

担当 受発注コーディネーター 浦川

※全てのお申込みは、工賃引上げ計画シート提出済みの施設・作業所が対象となります。

詳しい内容は、各担当者までご連絡ください!

☎ 06-6949-3551 エル・チャレンジ

工賃倍増セミナー②

8月11日、食品衛生に関する第2回のセミナーを開き、製菓の調理現場における衛生管理について学びました。

セミナーの前半は情報提供で、(株)消費経済研究所の北井さんより品質管理の重要性などの事項についてのレクチャーがありました。お話の中で特に印象的だったことは、商品として流通させるということは一般メーカーと同等の品質管理が要求されるという考えでした。それは食品という人の口に入るものを作るということの宿命であり、施設のものであっても間違いが許されないということです。もちろん一般メーカーと施設では組織や設備などに大きく違いはありますが、自分たちが取り組めることを実践していくことは大切だと感じました。

後半では、よさみ野障害者作業所さんの厨房に入って実践的な注意点を説明していただきました。ゾーニングの重要性や持込み物についての注意は参加者からも役立ったことが多かったという感想がありました。最後に質疑応答をしましたが、製品の賞味期限のことや材料等の表示方法についてなどたくさんの質問が出ました。全般を通じて、食品衛生という大きな課題について様々な個別の課題や疑問があるということがわかりました。



会場提供: よさみ野障害者作業所
参加施設: 27施設
参加人数: 30人

今回は時間の制約もあり、厨房における衛生管理という点に絞ってセミナーを開きましたが、その他の課題についても考えていけるような機会をもつことも検討していく必要があると感じました。



2011年度 企業アンケートより

受発注コーディネーターが販路開拓に取り組み、新たにおつきあいをさせていただいた企業様は、今年5月時点で198社になります。その企業様はこの間の施設との交流について、どのような感想をもっておられるのでしょうか。

5月に実施した「大阪府工賃倍増5か年計画に関する事業効果及びニーズ調査」(回答95社)によると、業務依頼や製品購入、販売協力についてそれぞれ「満足した」「ほぼ満足した」が合わせて80%~90%を占め、非常に満足度の高い評価をいただきました。業務依頼では、「急ぎの納期に対応していただいた」「想像以上に仕上がりがよかった」、製品購入では、「商品がバラエティに富んでいる」「手づくりでおいしい」、販売協力では、「おいしいパンが社内で食べられるようになった」等、うれしい声をたくさんいただいています。また、「施設と交流してよかったこと」については、「社会貢献・地域貢献ができた」が最も多く、次いで「社員の障がい者理解が深まった」等となっています。

「障がい者施設とつながりを
持ててよかった」との声続々!

注目したいのは、「お客様や従業員に喜ばれた」、「お客様とのコミュニケーションにつながった」、「会社のイメージアップになった」、「社内の活性化につながった」等、ポジティブに具体的なメリットを評価いただいていることです。慈善活動としてではなく、こうしたWin-Winの関係こそ、長いおつきあいにつながっていくポイントなのではないでしょうか。

施設と交流してよかったこと

